

白山火山噴火緊急減災対策砂防計画

見直しについて

令和5年2月

白山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会の検討フロー

◆平成28年度から検討を開始し、令和元年12月に計画が策定

①計画策定の基本事項

○現状把握

平成28-29年度

第1回検討委員会

平成29年2月13日

②対策方針の設定

- 緊急減災対策の対象現象を抽出
- 対象とする現象の影響範囲の把握
- 対象とする現象の被害の概略を把握

第2回検討委員会

平成29年12月15日



③緊急時に実施する対策の検討

- 対策開始のタイミングや対策場所、対策可能な現象・規模などを設定し、対策方針を設定
- 対策方針に基づいて、ハード対策、ソフト対策を検討
- 火山噴火時に実施する緊急調査の項目・内容を整理

平成30年度

第1回行政WG

平成30年7月25日

第3回検討委員会

平成30年10月18日



④平常時からの準備事項の検討

- 緊急時の対策を行うために平常時から準備しておくべき事項について検討・整理

令和元年度

第2回行政WG

令和元年11月1日

第4回検討委員会

令和元年12月25日



⑤火山噴火緊急減災対策砂防計画 策定

計画策定後、計画を実行に移すための取り組み、平常時準備の着手、PDCAサイクルによる計画の見直し等

白山火山噴火緊急減災対策砂防計画策定後の流れ

◆令和元年12月に委員会後、緊急減災の検討結果(噴火規模や影響範囲の見直し)を反映して、防災部局(火山防災協議会)の計画などを更新

令和元年12月 「白山火山噴火緊急減災対策砂防計画」策定 (第4回委員会)

白山火山計画等へ反映した後に
公開することを調整

令和2年2月 白山火山防災協議会で計画策定を報告

新型コロナにより白山火山防災協議会が中断

令和3年3月 「白山火山噴火緊急減災対策砂防計画(第1版)」を公開

白山火山防災計画(平成27年6月)の内容で公開

令和4年3月 白山火山防災協議会が「白山火山防災計画」を改定

令和4年4月 気象庁が「噴火警戒レベルリーフレット」を改定

今回の検討事項

白山火山防災計画等の内容を反映して改定が必要
(基本的に第4回委員会で承認された内容を反映)

令和5年2月 「白山火山噴火緊急減災対策砂防計画(第2版)」を更新・公開

令和5年3月 白山火山防災協議会で計画改定を報告(予定)

噴火シナリオの見直し

白山火山防災計画等に緊急減災の内容が反映された

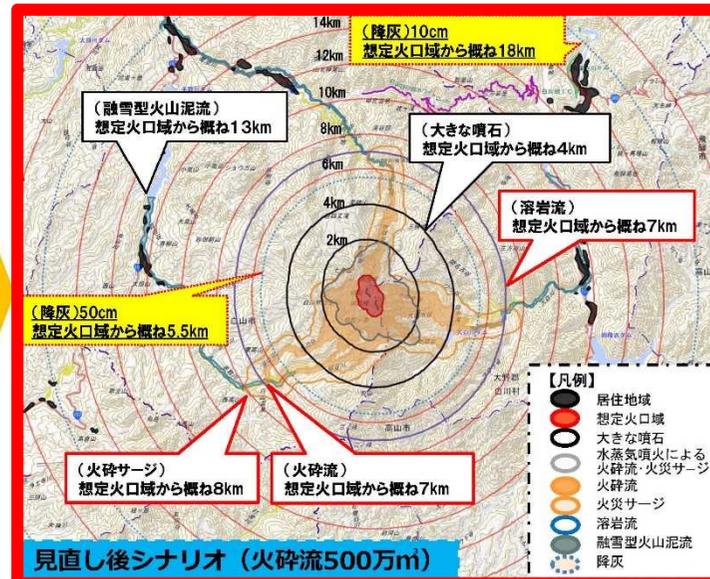
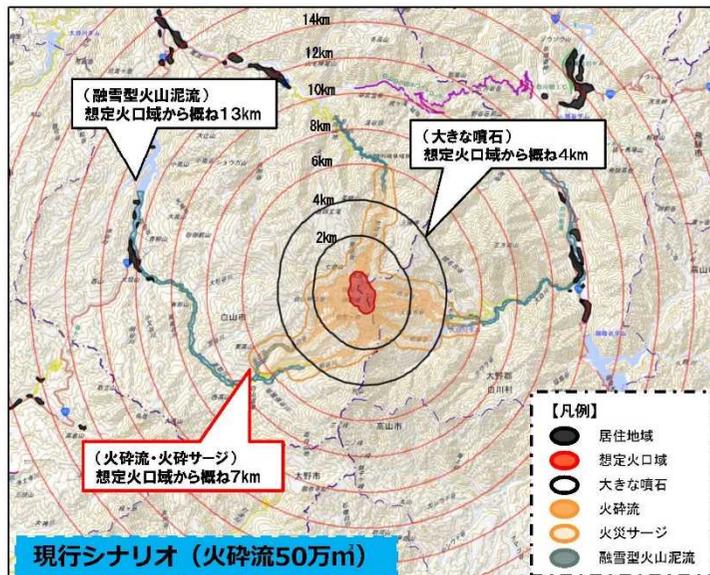
白山の噴火シナリオ（影響範囲）の見直しについて

- 白山火山防災協議会では、国のシミュレーション（小規模噴火）を基礎資料として、火山防災計画などを策定（H27.6）
- 白山に関する調査研究により新たな知見が得られ、国では新たなシミュレーション（中規模噴火）を実施（R2.3）

【シミュレーション結果】

➢ 想定する噴火規模が拡大（火砕流50万m³→500万m³）したことに伴い、火砕流の到達域が想定火口域から概ね7 kmが概ね8 kmに広がっているものの、影響範囲に大きな変更はない。

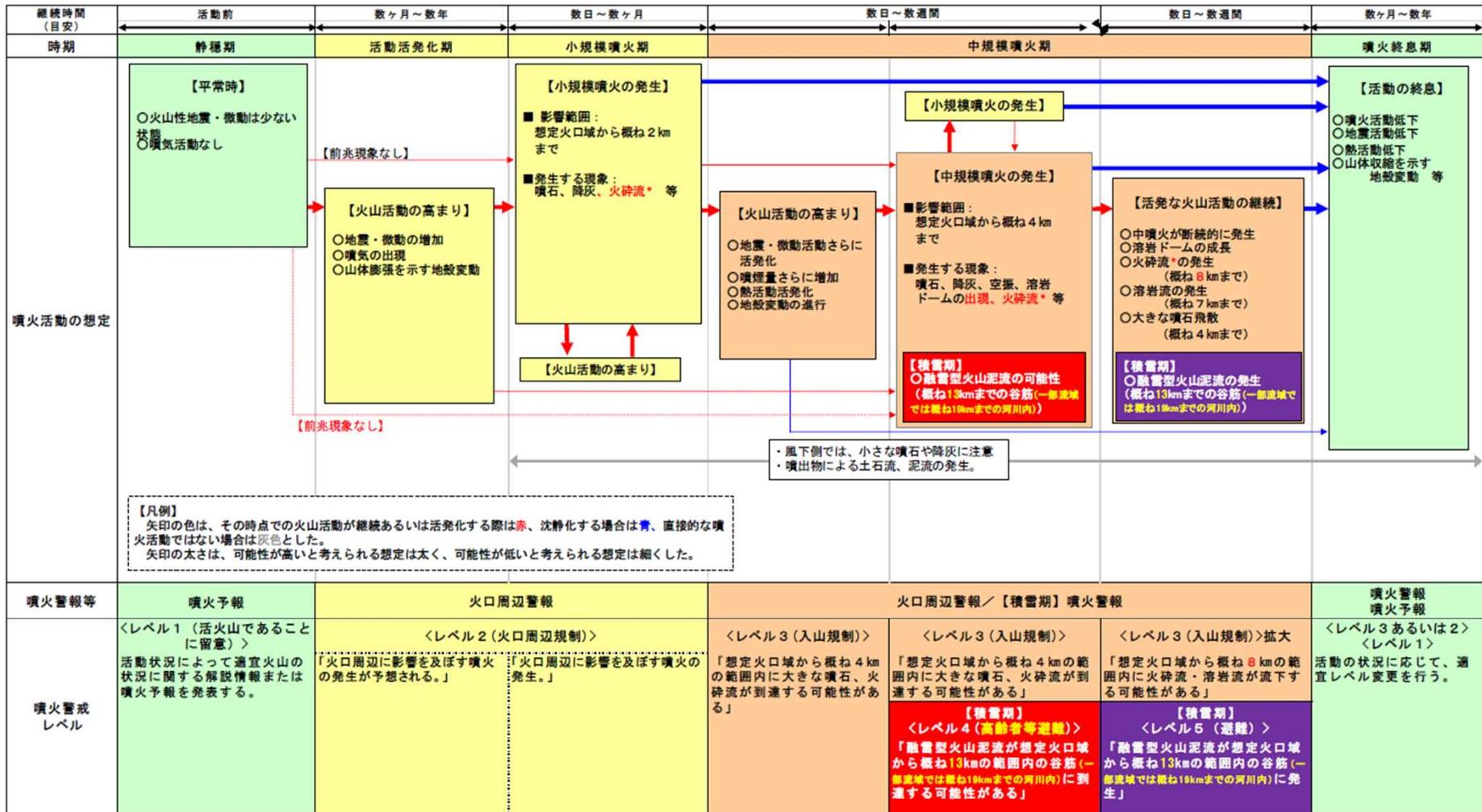
区分	噴火発生時に想定される現象	白山噴火シナリオ（影響範囲）		【参考】 噴火警戒レベル
		現行（火砕流50万m ³ ）	見直し（火砕流500万m ³ ）	
水蒸気噴火	噴石飛散	想定火口域から概ね2 km（居住地域への影響なし）	想定火口域から概ね2 kmの範囲（居住地域への影響なし）	レベル2
	火砕流・火災サージ	-	<u>想定火口域から概ね2 kmの範囲（居住地域への影響なし）</u>	
	融雪型火山泥流	-	<u>噴火に伴う事象として記載</u>	
マグマ噴火	降灰	噴火に伴う事象として記載	<u>想定火口域から概ね12 kmまでは降灰厚1 cm以上</u>	-
	噴石飛散	想定火口域から概ね4 km（居住地域への影響なし）	想定火口域から概ね4 kmの範囲（居住地域への影響なし）	レベル3
	火砕流・火災サージ	想定火口域から概ね7 km（居住地域への影響なし）	想定火口域から概ね8 kmの範囲（居住地域への影響なし）	レベル3 （拡大）
	溶岩流	想定火口域から概ね7 km（居住地域への影響なし）	想定火口域から概ね7 kmの範囲（居住地域への影響なし）	
	融雪型火山泥流	想定火口域から概ね1.3 km	想定火口域から概ね1.3 km（谷筋）の範囲 （一部流域では概ね1.9 kmまでの河川内）	レベル4 レベル5
	降灰	噴火に伴う事象として記載	<u>想定火口域から概ね3.7 kmまでは降灰厚1 cm以上</u>	-



- 噴火に伴う事象**
- 噴石飛散**
火口付近の岩石や空中で冷えて固まったマグマが砕けて飛散する現象
 - 火砕流・火災サージ**
高熱の岩石や破片や、火山灰と空気が混ざった高熱の爆風などが急速に山腹を流下する現象
 - 溶岩流**
高温で溶けた溶岩が斜面を流下する現象
 - 融雪型火山泥流**
噴火に伴い火口周辺の積雪が溶けて噴出物や周囲の土砂、木などを巻き込んで流下する現象
 - 降灰**
マグマや噴石が細かく砕けて降り積もる現象

白山火山活動フローの見直し

◆白山の火山活動フロー(噴火シナリオ)も、緊急減災の検討内容を踏まえて更新
(下図の赤文字と黄文字が変更になった箇所)



- ・ここでいう噴石とは、風の影響を受けない弾道を描いて飛散する大きさのものとする。
- ・これは一つの想定であり、必ずしも起こり得る全ての現象やその推移を網羅したものではない。
- ・気象的な要因に影響されるものの、降雨時には噴火による堆積物が雨と混合して土石流・泥流が発生する恐れがある。

(*火砕サージを含む)

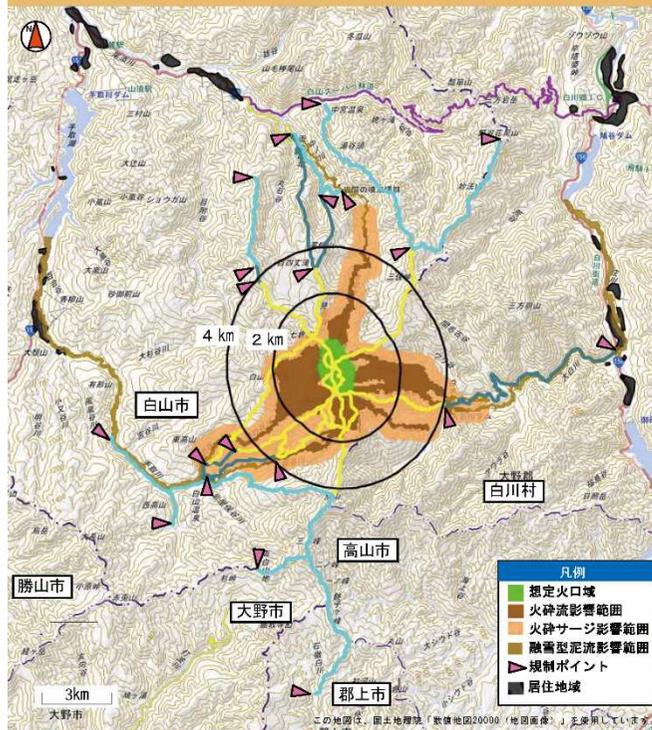
図7 白山火山活動フロー

噴火警戒レベルリーフレットの更新内容

◆気象庁の噴火警戒レベルリーフレットも、白山火山防災計画の変更にしたがい火砕流規模50万 m^3 の範囲から、**500万 m^3 の範囲に変更された**

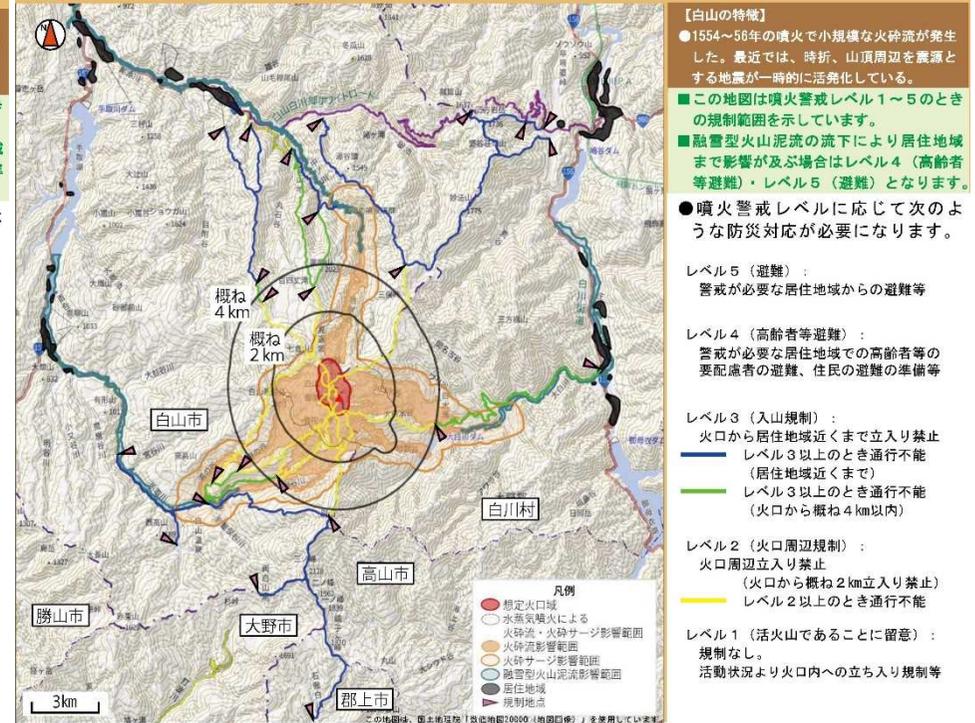
平成27年9月版

白山 噴火警戒レベル1～5に対応した規制範囲



令和4年4月版

白山 噴火警戒レベルに対応した規制範囲



白山火山噴火緊急減災対策砂防計画(第2版)の方針

- ◆ 白山火山噴火緊急減災対策砂防計画(第1版)は、「古い白山火山防災計画」に合わせた内容で公開
- ◆ 令和4年3月に更新された「新しい白山火山防災計画」に合わせる必要がある
=> 大部分は、令和元年12月の第4回委員会で承認された内容

◆ 第2版の改定方針

- 第4回委員会で承認された内容に戻す
- 時間が経過しているため、人口などは最新情報に更新する

○ 改定する内容

- 変更となった影響範囲(7km→8km)などについて反映
- 人口や観測データなど、最新のものに変更できるものを更新
※改定箇所は別紙参照